10・4毎日(東京)夕(一)

竹島に大砲を設置

韓国兵二個分隊が警備

海上保安庁報告

四日正午海上保安庁に入った報告によると、竹島に韓国側が無電施設を作り大砲まで置いていることがわかった。この調査は二日巡視船"おき""ながら"(各四五〇トン)が行ったもので、報告要旨は次のとおり。

◇竹島の本島頂上には無線塔二本が高さ十尺、間隔四十尺で設置してあった。

◇二本の無線塔の下に木造家屋がそれぞれ建てられている。

◇東側無線塔の東突端に砲を備え方向は東南(日本本土側)に向けられている。砲の大きさは日陸軍の山砲級と思われる。

◇灯台は点灯しており四、五秒間一白せん光で光力は強くない。

◇韓国漁夫遭難記念碑付近に伝馬船一隻が引き揚げられていた。

◇巡視船は南西から竹島に接近、一・五浬の距離で北から同島を一周した。南西側付近に来た時、無線塔付近の家屋から韓国警備兵七名が現れ、砲のおおいをはずして巡視船の方に砲口を向けた。

◇目撃による警備兵の数と新設の家屋から判断して約二個分隊程度の兵力が常駐しているものと思われる。

1954年10月04日